



荒川さん



石黒さん

お話をお伺いした方

富士ゼロックス大阪株式会社
ブロックマーケティング本部
ブロックマーケティング推進部 **CSR** 課

課長 荒川 隆さん

石黒 修さん

荒川さん

日頃の担当業務

CSR 全般

モットー

孫に若さで負けないようにする！

趣味

読書 おもしろい古本を探すこと

休日の過ごし方

孫と一緒に過ごすこと。

好奇心旺盛なため、休日とはとにかく動いています。

石黒さん

日頃の担当業務

社会貢献活動全般

モットー

「つないで、つむいで」

点を繋いで糸になる、糸を紡ぐと模様のある布ができる。

色々なつながりを大切にしています。

趣味

園芸、演芸、踊りと多彩。

休日の過ごし方

たくさんのつながりの中で、活動の打ち合わせやイベントに出席する。

予定は休日から埋まります。

富士ゼロックス大阪株式会社におけるCSR活動

御社のCSR活動で、特に力を入れておられる分野は何ですか。

富士ゼロックス大阪では、**2001年6月**にISO14001を取得しました。これは、環境保全活動を通じ、地域のお客様に貢献したいという思いから実現したものです。社員の環境意識を高めるため、「環境方針カード」を作成し、社員全員に配

布しています。

また、ISO14001は、企業理念とも一致しており、PDCAのマネジメントシステムを構築することで、環境保全だけでなく社内の体質改善にもつながるという考えがありました。

その後、社内はもちろん、お客様の情報資産の保護のために、**2005年9月**にISO27001を取得しました。さらに、お客様に対する営業やサービスの提供品質の向上のために、**2010年3月**には、ISO9001も取得しました。

全ての活動は、つよい（CS＝顧客満足度向上を目指す）、おもしろい（ES＝従業員満足度向上を目指す）、やさしい（地域・社会への貢献）の視点から『さすが富士ゼロックス大阪』と言われる会社を目指す、「さすがの実現」というビジョンに繋がります。

具体的には、どのような取組みを行っておられますか。

環境分野においては、社員・協力会社・地域と連携し、「クリーンおおさか」という清掃活動に参加しています。「クリーンおおさか」は毎年11月に行われる、大阪市主催の一斉清掃活動です。社員、家族、協力会社等の多くの方の協力のおかげで、参加者数は年々増加しています。

また、大阪市中央区社会福祉協議会のマスコットキャラクター「ももっぴいちゃん」の製作費用の一部を寄附しました。これからも様々な場面で「ももっぴいちゃん」と一緒に活動する予定です。

CSR活動について、社内での反応はいかがですか。

情報セキュリティに関しては、特に本業につながるものですので、社員の意識は高いです。富士ゼロックス全体で「言行一致」を掲げており、その実現に向けてみんなで取り組んでいるところで

す。社内での良い取組みをすることは、お客様への還元にもつながります。将来に向け長期的な視点を持って、色々なことに取り組んでいく必要があると考えています。

大阪での森づくり活動

アドプトフォレストに参加されたきっかけを教えてください。

環境マネジメントシステムの導入、ISO 14001取得などに取り組んでいましたが、紙使用量の削減、電気使用量の削減、ゴミの削減など、取り組める範囲に限度がありました。

そこで、さらに取り組みを広げたいとの思いから、森づくり活動を始めるに至りました。

アドプトフォレストに対する、社内での評判はいかがですか。

活動の評価は難しいのですが、森づくり活動が好きな社員は積極的に参加してくれています。また、アドプトフォレスト活動をきっかけに、新たに社の活動以外に里山保全活動を始めた社員もいます。

さらに、「参加して初めて、森林は手入れが必要だということがわかった」という声もあり、実際に体験することの大切さを感じています。

「百聞は一見に如かず」と言いますが、「百聞は一『験』に如かず」と捉え、何事も経験を大切に、たくさんの人に活動に参加してもらいたいと考えています。

アドプト活動の成果や、活動に取り組んで良かったと思える点はどんなところでしょうか。

色々な人とつながりができたことが大きいと思います。

特に、原城山のアドプトでは、一緒に活動をしている他の企業の皆さんとも交流することができ、そのことも大きな魅力になっています。

担当者の方は、業務以外の場面で、森林や山に親しんだ経験をお持ちですか。

（荒川さん） 山を歩く習慣はあります。専門的な知識を持っているわけではありませんが、興味を持てるイベント等に参加しています。

（石黒さん） 小さい頃から山には親しんでいました。子どもの頃、母親と一緒に山菜取りなどに山に入った記憶があります。若い時はロッククライミングもしていましたが、今は山歩きを楽しんでいます。

森づくりを進めていく上では、長期的な視点が大切だと思いますが、長期間モチベーションを維持するためのポイントはどのような点だと思われますか。

どんなことにも共通して言えることだと思いますが、「楽しい」と思う気持ちがなければ長続きしません。植樹ができる場所であれば花見を目標にするなど、参加者に「好き」「また参加したい」と感じてもらうことが大切だと思います。

そんな経験を積んでもらえば、活動へのリピーターが増え、さらに新規で活動に参加してくれる社員も増えます。

富士ゼロックス大阪の活動では、「楽しみ」をどこに入れるか、ということをよく考えるようにしています。「楽しみ」のアイデアを考える際にも、社内以外でお付き合いのあるたくさんの方の意見が参考になります。そういった意味でも、広く世界を持つことは大切だと感じています。

社内でボランティア活動等に対し、何等かの支援制度を設けておられれば、その内容を教えてください。

富士ゼロックスでは、ボランティア活動のために取得できる「ボランティア休暇制度」があります。

また、独自の取り組みとして、「端数倶楽部」という取り組みがあります。

これは、毎月の給料や賞与のうち、100円未満の『端数』に、個人の任意の金額を足し、積み立てて、社会貢献活動に有効活用しようというものです。この資金を外部に寄付するときには、会社から同額がプラスされます。

一人ひとりではささやかな金額でも、全体ではまとまった資金になり、様々な分野で役立ててもらうことができます。

これからの森づくり・アドプトフォレスト活動に対する思いをお聞かせください。

里山で作業をするだけで終わることなく、里山の原風景を取り戻すところまでを考え、目標を持って取り組んでいきたいと考えています。

多様な方が参加し、作業することができる活動を目指したいと思います。

みんなに活動を楽しみにしてもらえるような「しかけ」をどう作っていくか、考えながら続けていきたいと考えています。

最後に、大阪府アドプトフォレスト制度や森づくり活動全般に対するご意見・ご要望があればお願い致します。

現在は、大阪府や関係者の皆さんから活動の支援や道具の支援などをして頂き、活動そのものが大変あたたかみのある場だと感じています。

さらに希望を言うとなれば、他企業との連携です。現在は原城山地区で活動している他の企業の皆さんと交流がありますが、他地域で活動している皆さんとも交流を広げられたら、という思いがあります。

活動において「ネットワーク」は重要であると考えています。どんな企業や団体も、それぞれ「強み」「弱み」を持っています。互いに連携し、それぞれの強みを活かせば、想像以上のものが出来上がる可能性を持っています。

参加企業が互いに交流できるような機会が今後増えていくことを願っています。

富士ゼロックス大阪株式会社様では、新しい出会い、様々なつながりを大切にしながら、活動の幅を広げておられます。

これからも、森づくり活動への取り組みから、社員の様や地域の方々が連携し、交流の輪が広がっていくことを願っています。

インタビューー

大阪府 みどり・都市環境室 みどり推進課 森づくり支援グループ 上中 理恵子